

# Jean Renoir,

9.6 [金] → 10.6 [日]

主催・会場：東京日仏学院

du 6 septembre au 6 octobre 2024  
à l'Institut français de Tokyo

à l'occasion de  
130<sup>ème</sup> anniversaire  
de sa naissance



生誕130周年記念特集  
ジャン・ルノワールの現在をめぐって

ゲスト (アルファベット順)

Avec la participation de

濱口竜介 (映画監督)

Ryusuke HAMAGUCHI, cinéaste

木下千花 (映画研究者)

Chika KINOSHITA, chercheuse en cinéma

三宅唱 (映画監督)

Sho MIYAKE, cinéaste

ナデージュ・ルレ (映画教育専門家)

Nadège ROULET, spécialiste de l'éducation à l'image

角井誠 (映画研究者)

Makoto SUMII, chercheur en cinéma

AMBASSADE  
DE FRANCE  
AU JAPON  
Liberté  
Égalité  
Fraternité

INSTITUT  
FRANÇAIS  
東京日仏学院  
Tokyo

# Jean Renoir, Vivant !

à l'occasion de 130<sup>ème</sup> anniversaire de sa naissance

## 生誕130周年記念特集 ジャン・ルノワールの現在をめぐって



▲『ピクニック』撮影中のジャン・ルノワール ©Eli Lotar / Les Films du Jeudi

ルノワールの明白な哲学、彼の唯一のモラルとは、すべてを肯定することだ。性や快楽主義、そして貧困、下劣さ、人間が成すすべてを肯定する。ルノワールにとって、あらゆる場所に人間的なるものが宿っている。人間性によって高貴な魂に導かれることもあれば、卑俗な感情に追込まれることもある。たいしたことでない、なぜならルノワールのヒーローたちはありふれた、平凡なことに敢然と立ち向かうことで偉大なヒーローになるのだから —— アルノー・デブレジャン

▶『女優ナナ』の撮影風景。一番上において黒いサングラスをかけたのがジャン・ルノワール ©Les Films du Jeudi

ジェネロジテ  
générositéという「気前のよさ・寛容さ」を意味する言葉を目にするたび、ジャン・ルノワールのことを想起する。ジェネロジテは、真に「何かを生み出す」うえで必須のものだ。にもかかわらず、これを有している映画人を彼以外に思い出すことができない。一方で「演技指導」や「撮影風景」を見れば、演技の質を峻別する彼の鋭敏さと厳密さに驚嘆するしかない。ジャン・ルノワールは、徹底して矛盾を生きる。観客の責務と愉悦は、この矛盾に立ち会い、戸惑い、飛び込むことに存する —— 濱口竜介



©Les Films du Jeudi

「呪われた映画作家」のひとりであったジャン・ルノワールを自分たちの「親父＝守護聖人」であるとし、「世界最大の映画作家だ」と高らかに称えたのはトリュフォーやゴダールらヌーヴェル・ヴァーグの若き映画作家たちでした。その後、その評価は世界的なものとなり、ルノワールの作品は多くの映画人に影響を与えてきました。約20本のルノワール作品と、ルノワールについてのドキュメンタリーで構成された本特集では、しかしルノワールを記念碑的存在とするのではなく、つねに変化し、移動し、越境してきたルノワールの作品の多様性をあらためて発見し、「生きたルノワール」としてその現在性、現代性を見出してみたいと思います。上映のほか、豪華ゲストを迎えたトークショーも予定しています！

ジャン・ルノワールは、ヨーロッパで最も偉大な映画監督であり、おそらくすべての映画監督の中で最も偉大な映画監督である —— オーソン・ウェルズ

ジャン・ルノワールは、サイレント映画、トーキー映画、長編映画、ドキュメンタリー、テレビを通じて、気品と責任感、そして羨望すべき力量を持って仕事をしてきた映画人です —— イングリッド・バーグマン (のびる子猫)

ルノワールほど私が敬愛する人はいない。私がこれほどまでに彼を敬愛しているのは、望んでいた職業を彼が与えてくれたから、そしてそれらなしには今のフランス映画がなかったであろう素晴らしい作品を彼が生み出したからだ —— ジャック・ベッケル



▲左からジャン・ルノワール、ジャック・ベッケル、イングリッド・バーグマン、ロベルト・ロッセリーニ ©Gaumont

9月22日 [日] | 11:00

### こども映画教室

Atelier cinéma pour le jeune public

子供たち、若者たちが映画に触れる機会を作るべく全国的に活動しているフランスの映像教育協会 Archipel des lucioles (アルシペル・デ・ルシオール) からナデュージュ・ルレ氏を迎え、ジャン・ルノワールのサイレント時代の傑作『マッチ売りの少女』上映し、本作の魅力、面白さについて語っていただきます。

一般：1,100円 中学生以下：500円

※8歳以上の方におすすめ致します



### ジャン・ルノワール 4Kレストア Blu-rayセット

発売中!

収録 『コルドリエ博士の遺言』  
『捕えられた伍長』

ルノワール後期の傑作、高精細4Kレストア版で初Blu-ray化！解説ブックレット、オリジナルポスター、特製ステッカーを封入。

【発売元】 アイ・ヴィー・シー  
【価格】 ¥10,000 (+税)

<https://www.ivc-tokyo.co.jp>





©1928 STUDIOCANAL. All Rights Reserved.

**マッチ売りの少女 La Petite marchande d'allumettes**

[フランス/1928年/29分/サイレント/モノクロ/4Kレストア版]

出演：カトリーヌ・ヘスリング、ジャン・ストルム

ルノワールが幼年時代から親しんできたアンデルセンの童話をヴェー = コロンビエ劇場の屋根裏をスタジオに、特殊撮影のテクニックも取り入れ、映画的なアイデアを駆使して描いた作品。少女がマッチに火を灯して夢見る世界が幻想的に描かれ、“死”の使いから逃げようと馬で空を駆けるシーンや、山に埋葬されるシーンなど魅力にあふれている。主演は『水の娘』(24)『女優ナナ』(26)『チャールストン』(27)などで組み、当時ルノワールの妻でもあったカトリーヌ・ヘスリング。



©Les Films du jeudi

**牝犬 La Chienne**

[フランス/1931年/100分/モノクロ/デジタルリマスター版]

出演：ミシェル・シモン、ジャーニー・マレーズ、ジョルジュ・フラマン

生真面目で、会社でも家でも馬鹿にされているモーリスは夜道で男から乱暴を受けている若い女リュリュを助け、恋に落ちる。しかしその男は街の女リュリュのひもであり、モーリスは金づるにされることに…。ルノワールが本格的に手掛けたトーキー作品で、アフレコをいっさい使わず、ロケで同時録音を行っている。俳優たちが物語同様、恋愛関係になるほど、リアリズムが徹底された。今回は2014年デジタル修復版を日本初上映する。パリの夜の街角やアパートマンの窓から見える風景など、映像がより精細になり、音響も当時の同時録音を生かしながら、台詞が聞こえやすくなっている。



©1931 - PATHE RENN PRODUCTION - PROD.MICHEL SIMON

**素晴らしき放浪者 Boudu sauvé des eaux**

[フランス/1932年/86分/モノクロ/デジタルリマスター版]

出演：ミシェル・シモン、シャルル・グランヴァル、マルセル・エニア

セーヌ川に身を投げたブーデュは本屋の主人に助けられ、その家に住むことになるのだが…。ルノワールが信条とした自由人としての生き方が彼の愛する俳優ミシェル・シモンによって見事に体現された作品。

**「ルノワールはミシェル・シモンにいっさいの自由を与え、のびのびと演技させている。ルノワールはそのために、河岸のアパートマンのパン・フォーカス撮影であれ、舟遊びのシーンであれ、確かさをもってカメラを据えたり動かしたりしている」** —— エリック・ロメール



©1934 Gaumont

**トニ Toni**

[フランス/1934年/96分/モノクロ/4Kレストア版]

出演：シャルル・ブラヴェット、セリア・モンタルヴァン、ジェニー・エリア

地中海沿岸の街に定期的にやってくる季節労働者トニと彼をめぐる女性たち、村の人々の切ない物語。多くの素人を起用し、セットを使わずに南仏オールロケで撮影された本作は、イタリアのネオリアリズムの先駆といわれている。

**「ルノワールの5本か6本の最も美しい映画の一本であり、太陽が宿命の役割を果たしている悲劇である」** —— フランソワ・トリュフォー

**「とても美しく、叙情的で、とても悲しい、偉大なルノワールの映画だ」** —— ウェス・アンダーソン



©1962 STUDIOCANAL. Tous droits réservés.

**ランジュ氏の犯罪 Le Crime de monsieur Lange**

[フランス/1935年/96分/モノクロ/35mm]

出演：ジュール・ベリー、ルネ・ルフェーヴル、フロレレ、ナディア・シビルスカヤ

小さな町工場の印刷所で働くアメデ・ランジュは冒険小説家になるのが夢。社長のバラタが経営に失敗し夜逃げした後、ランジュたちは会社を自主管理し、ランジュの小説連載のおかげもあり会社を再建するのだが…。脚本詩人ジャック・ブレヴェールを迎え、自由自在に動くカメラで撮られた本作はパリの労働者の姿をリアルに描いた傑作。

**「ルノワールの総ての映画の中で、最もびやかで、演技とカメラの“奇蹟”の密度が最も高い、恩寵に導かれてつくられた映画」** —— フランソワ・トリュフォー



©Les Films du jeudi

**ピクニック Une partie de campagne**

[フランス/1936年/40分/モノクロ/デジタルリマスター版]

出演：シルヴィア・パタイユ、ジャーヌ・マルカン、アンドレ・ガブリエル、ジョルジュ・ダルヌー

モーパッサンの小説を原作に、パリから郊外の河畔にやって来た一家の午後、自然を前にした官能、感情の迸り、二度と訪れない青春のひと時を描いた詩情あふれるルノワールの代表作の一本。若きアンリ・カルチエ = ブレッソンやジャック・ベッケル、ルキノ・ヴィスコンティらが助手として参加している。

**「力強く、見る度にも心揺さぶられる大好きなルノワール作品。登場人物たちの人生の断片、あなたはその中に入り込み、彼ら、彼女らに起こっていることがあなた自身の記憶となる」** —— ダヴィ・シュー



©1936 Gaumont

**どん底 Les Bas-fonds**

[フランス/1936年/90分/モノクロ/4Kレストア版]

出演：ルイ・ジュールヴェ、ジャン・ギャバン、シュジー・プリム

どん底の暮らしに生きる人々が寝床にする木賃宿で、泥棒ベベルは、ただひとり自分の生活を立て直そうとしていた。ある日、彼が男爵の家に忍び込むと、自殺しようとしていた本人と顔を合わせ意気投合。数日後、男爵は破産しすべてを失ってしまい、ベベルと同じ宿で暮らし始める。ルノワールは、ロシア文学を代表するゴッリキーの同名戯曲を本人の了解を得て自由に脚色し、ルイ・ジュールヴェとジャン・ギャバンという二大俳優とともに男の友情を見事に描いてみせた。戦前の日本で最も有名だったルノワール作品。



©1938 STUDIOCANAL. All Rights Reserved.

### ラ・マルセイエーズ La Marseillaise

[フランス/1937年/135分/モノクロ/HDレストア版]

出演：ピエール・ルノワール、リズ・ドラマル、レオン・ラリヴ、ルイ・ジュールヴェ

一般の寄付によって資金を集めるという型破りな製作方法でスタートするも、資金不足に。ルノワールはそれを逆手にとって、親しい役者たちを動員し、庶民の視点からフランス革命を描いた。

「ルイ16世からレドレールへ、マリー・アントワネットから名もない女工へ、宮廷から街頭へと移っていく」—— ジャン・ルノワール

「本作の構成は西部劇のように、ルノワールの唯一の大移動映画だ。主人公というものはおらず、それぞれ取柄があり、気高く、人間的である」—— フランソワ・トリュフォー



©1939 Les Grands Films Classiques, Paris

### ゲームの規則 La Règle du jeu

[フランス/1939年/112分/モノクロ/4Kレストア版]

出演：マルセル・ダリオ、ノラ・グレゴール、ジャン・ルノワール、ジュリアン・カレット

フランス中部ソーレニユでの狩りの最中に行われる貴族と使用人たちの恋愛遊戯。しかしその裏側には「死」の主題がピッタリ張付き、その不穏な表情が…。トリュフォーが「映画愛好家のバイブル」と呼ぶ、泣く子も黙る映画史上の名作。ルノワール演じるオクターヴを含め、登場人物＝俳優それぞれが異なる生のあり方、異なる演技を示し、かぎりなき多様性としてある世界が描かれていく。今回の上映は2021年修復版での特別上映となる。

[協力：シネマテーク・フランス]

「戦争の映画なのに、戦争のことはこれっぽっちも触れられていない」—— ジャン・ルノワール



©DR

### この土地は私のもの Vivre libre (This land is mine)

[アメリカ/1943年/103分/モノクロ/デジタル]

出演：チャールズ・ロートン、ケント・スミス、モーリン・オハラ

第二次大戦中のヨーロッパのある都市、小学校教師アルバートは隣家の同僚ルイズに想いを寄せていた。町を占領しているドイツ軍は破壊工作に業を煮やし、アルバートを逮捕してしまう。

「『この土地は私のもの』は、その古典的演出や、(アメリカの観客を説得するために)いつものルノワールとは異なる用意周到な演出の映画となっているが、たとえば『ラ・マルセイエーズ』のピエール・ルノワールにも、監督自身にもよく似たチャールズ・ロートンが演じる人物と彼の演技のなかに、我らの作家を認めることができる」。—— フランソワ・トリュフォー



©DR

### 南部の人 L'Homme du sud (The Southerner)

[アメリカ/1945年/91分/モノクロ/デジタル]

出演：ザカリー・スコット、ベティ・フィールド、ジェイ・ギルピン

アメリカ南部の過酷な自然の中で、様々な困難に遭いながらも、綿花を育てようとする一家の姿をドキュメンタリーのような生々しいタッチで描いている。助監督として26歳のロバート・アルドリッチも撮影に参加している。ヴェネチア映画祭で最優秀作品賞を受賞。

「すべてが主人公である物語、物語の各要素すべてが、それぞれ見事に自己の役割を果たし、人間も動物も物も、全てが至高の存在に巨大な讃歌を捧げているような、そんな物語の可能性をこの物語の中に見出した」—— ジャン・ルノワール



©DR

### 浜辺の女 La Femme sur la plage (The Woman on the beach)

[アメリカ/1946年/71分/モノクロ/DVD]

出演：ジョン・ベネット、ロバート・ライアン、チャールズ・ピックフォード

元軍人が盲目の画家の妻に出会い、強烈に引かれ合っていく。ルノワール最後のハリウッド映画となった本作は、第二次世界大戦直後にその後遺症について描き、不穏な雰囲気が漂う孤高の傑作である。友人であったジョン・ベネットからRKO製作で映画を撮ろうと提案されて始まった本作は、アメリカ50年代の代表的俳優となるロバート・ライアン初主演作品となる。

「3人の俳優たちは、まるで動物のようだ。抑えられた性的欲望が漂っているジャングルの中を漂う獣のようである」—— ジャック・リヴェット



©DR

### 河 Le Fleuve

[インド＝アメリカ/1950年/99分/カラー/デジタル]

出演：パトリシア・ウォルターズ、トーマス・E・ブリン、アーサー・シールズ

ガンジス河のほとりでは麻黄工場を営むイギリス人一家の娘たちが、隣家にやってきた負傷した若い元軍人に夢中になる。ハリウッド脱出第一作は、インド生まれの女性イギリス小説家ルーマー・ゴッデンの同名小説をインドでのオールロケ、テクニカラーで撮った作品となった。初のカラー撮影が非常に美しく、河を背景にした人間の生と死、性の目覚め、生命の躍動と円環がおおらかに描かれていく。当時27歳のサタジット・レイは本作でルノワールと出会い、映画への道を歩むことに。

「でたらめな感傷はここにはない。最も勇気ある映画のひとつだ」—— ペドロ・コスタ



©DR

### 黄金の馬車 Le Carrosse d'or

[フランス＝イタリア/1952年/100分/カラー/デジタル]

出演：アンナ・マニャーニ、ダンカン・ラモント、オドアルド・スバデーロ

18世紀初頭、南米のスペイン植民地にイタリアからコメディヤ・デラルテの一座がやってくる。やがてイタリアの一座の花形カミーラをめぐる恋のさや当てが始まる。戦後最大の女優アンナ・マニャーニを主演に迎えた奇想天外かつ自由奔放な傑作恋愛譚。「どこまでが芝居で、どこまでが人生？」というマニャーニの問いかけは、そのままルノワールの映画全体に当てはまるだろう。

「これこそ間違いなくルノワールの最高傑作だ」—— フランソワ・トリュフォー

「本作はルノワールのすべての作品を開く鍵である」—— エリック・ロメール



©DR

### フレンチ・カンカン French Cancan

【フランス/1954年/97分/カラー/HDマスター版】

出演：ジャン・ギャバン、フランソワーズ・アルヌール、マリア・フェリックス

ルノワールが15年ぶりにフランスで撮った作品。大好きなモンマルトルを舞台にジャン・ギャバンを再び主演に迎え、メキシコのスター、マリア・フェリックス、人気絶頂のフランソワーズ・アルヌールも起用して、ムーラン・ルージュの誕生を才気に満ちた演出で描く。

「ラストのカンカンのナンバーは、かならずや、満場の息を吞ませる真に力のこもったシーンであり、長い華麗な一節だ。ルノワールの力を、そのすばらしい健康と若さを感じずにはいられない作品である」—— フランソワ・トリュフォー



©1956 Gaumont

### 恋多き女 Elena et les hommes

【フランス/1956年/96分/カラー/デジタルリマスター版】

出演：イングリッド・バーグマン、ジャン・マレー、メル・ファーラー、ジュリエット・グレコ

ベル・エポックのバリ、フランスを舞台に、ポーランドから来た美貌の少女エレナが巻き起こす恋愛騒動をジャン・ルノワールが、盟友バーグマンとともに美しい映像で綴る、心躍る恋愛賛歌。

「『恋多き女』はこの作家の最もモーツァルト的な映画である。しかも、『ゲームの規則』のように外面的な見かけにおいてよりもむしろ、その哲学においてモーツァルト的である。映画とはなにか？という疑問に対して、本作はこう答えている、映画以上のものだ、と」—— ジャン・リュック・ゴダール



©1959 STUDIOCANAL – INA. All Rights Reserved.

### コルドリエ博士の遺言 Le Testament du docteur Cordelier

【フランス/1959年/96分/モノクロ/4Kレストア版】

出演：ジャン＝ルイ・バロー、ティティ・ピリス、ミシェル・ヴィトルド

スティヴンソンの小説『ジキル博士とハイド氏』を原作とし、ジャン＝ルイ・バローを主人公に、何台ものカメラを使って、テレビ用に撮られた作品。役者たちは、長いカットによって迫力のある演技を見せたが、とくにジャン＝ルイ・バローはコルドリエ博士とオパール氏を見事に演じ分ける。

「怪しい輝きを放つオパール氏は、後に、レオス・カラックスがドニ・ラヴァンと創造した『メルド氏』へと引き継がれるだろう」—— 角井誠



©1962 STUDIOCANAL. Tous droits réservés.

### 捕らえられた伍長 Le Caporal epinglé

【フランス/1962年/107分/モノクロ/4Kレストア版】

出演：ジャン＝ピエール・カッセル、クロード・ブラスール、クロード・リッシュ

『大いなる幻想』と同じく捕虜の脱走をテーマにしているが、若手俳優たちを起用して、当時のヌーヴェル・ヴァーグに近い明快で自由なタッチで描いている。

「私たちのヒーローたちは、彼らの中に真実を持っている。登場人物の発見にはちょっとしたサスペンスもある。彼らが臆病者なのか、勇敢なのか、誰なのか、本当のところはわからない。人はしばしば、自分たちが誰であったかを知ることなく死んでいくのだ」—— ジャン・ルノワール



©DR

### ジャン・ルノワールの小劇場 Le Petit théâtre de Jean Renoir

【フランス/1970年/94分/カラー/DVD】

出演：ニーノ・フォルミコラ、ジャンヌ・モロー、フランソワーズ・アルヌール、フェルナン・サルドゥー

「本作はルノワールの遺作であると同時に、彼の作品の集大成でもある。ジャンヌ・モロー演じる歌手にほとんど固定された正面からのワンシーン・ワンショット（『愛が死に絶える時』）や、熱狂、錯乱、そして特殊撮影（『電気床着き機』）、あるいはシンプルなストーリーテリング（『最後のクリスマス・イブ』、『イブターの王様』）など、ルノワール映画の様々な美学的集大成となっている。（…）映画の歴史（そしてキャリア）のもっとも美しい終わりである」—— リュック・ムレ



©Les Films du Jeudi

### ジャン・ルノワールの演技指導

#### La Direction d'acteur par Jean Renoir

【フランス/1968年/22分/カラー/DVD】

監督：ジゼル・ブロンベルジェ

出演：ジャン・ルノワール、ジゼル・ブロンベルジェ

ルノワールは、プロデューサーのピエール・ブロンベルジェの妻・ジゼルを相手に、ルーマー・ゴッデン（『河』の原作者）の小説『ニコライデス家との朝食』の一場面を稽古、演出する。感情を込めずにセリフを読む「イタリア式本読み」と呼ばれる方法を用いて、次第に俳優と登場人物の「神秘的な融合」へと迫っていく、ルノワールの演技指導をとらえた貴重なドキュメンタリー。



©DR

### 現代の映画作家 ジャン・ルノワール

#### 第3部 規則と例外

#### Cinéastes de notre temps

#### Jean Renoir, le Patron 3<sup>e</sup> partie:

#### La Règle et l'exception

【フランス/1966/75分/モノクロ/デジタル】

監督：ジャック・リヴェット

ジャック・リヴェットが敬愛するルノワールについて撮ったドキュメンタリーの第3部。ルノワールは『ゲームの規則』と『ラ・マルセイエーズ』のシークエンスについてコメントし、それぞれの登場人物について分析している。



©Les Films du jeudi

### 「ピクニック」の撮影風景

#### Un tournage à la campagne

【フランス/1994年/85分/モノクロ】

監督：アラン・フレシェール

出演：ジャン・ルノワール、シルヴィ・バタイユ

『ピクニック』の使われなかったラッシュから、映画作家、写真家、造形芸術家のアラン・フレシェールが紡ぎ出したもうひとつの『ピクニック』であり、俳優たちの個性や、彼ら、彼女らが演じるキャラクターの特徴をより深く理解することができる。演出の巨匠ジャン・ルノワールに見事な光を当てたドキュメンタリー。

	16:15	素晴らしき放浪者 (83分) <i>Boudu sauvé des eaux</i>
9.6 [金]		トニ (96分) <i>Toni</i> *
	18:30	上映前、坂本安美による作品解説あり précédé d'une présentation par Abi Sakamoto
9.7 [土]	11:30	ピクニック (40分) <i>Une partie de campagne</i> ピクニックの撮影風景 (86分) <i>Un tournage à la campagne</i>
	14:30	コルドリエ博士の遺言 (96分) <i>Le Testament du docteur Cordelier</i> * 上映後、角井誠による講演あり suivi d'une conférence par Makoto SUMII
	18:30	ランジュ氏の犯罪 (96分) <i>Le Crime de monsieur Lange</i>
	13:00	フレンチ・カンカン (97分) <i>French Cancan</i>
9.8 [日]	15:30	この土地は私のもの (103分) <i>Vivre libre</i>
	18:00	どん底 (90分) <i>Les Bas-Fonds</i>
9.14 [土]	13:00	ランジュ氏の犯罪 (96分) <i>Le Crime de monsieur Lange</i>
	15:30	トニ (96分) <i>Toni</i>
	18:00	黄金の馬車 (104分) <i>Le Carrosse d'or</i>
9.15 [日]	12:00	恋多き女 (96分) <i>Elena et les hommes</i>
	14:30	ゲームの規則 (112分) <i>La Règle du jeu</i>
	17:15	現代の映画作家シリーズ ジャン・ルノワール第3部「規則と例外」(85分) <i>Jean Renoir, le patron 3e partie : la règle et l'exception</i> * 上映後ディスカッションあり 登壇者：木下千花、角井誠/司会：坂本安美 suivi d'une table ronde avec Chika KINOSHITA, Makoto SUMII (animée par Abi Sakamoto)
9.20 [金]	16:30	牝犬 (100分) <i>La Chienne</i>
	19:00	マッチ売りの少女 (29分) <i>La Petite marchande d'allumettes</i> ピクニック (40分) <i>Une partie de campagne</i>
9.21 [土]	12:30	ラ・マルセイエーズ (135分) <i>La Marseillaise</i>
	15:30	ゲームの規則 (112分) <i>La Règle du jeu</i>
	18:15	現代の映画作家シリーズ ジャン・ルノワール第3部「規則と例外」(85分) <i>Jean Renoir, le patron 3e partie : la règle et l'exception</i>

	11:00	子ども映画教室 Atelier cinéma pour le jeune public マッチ売りの少女 (29分) <i>La Petite marchande d'allumettes</i> * 上映後、ナデージュ・ルレによるレクチャーあり suivi d'une conférence de Nadège Roulet
9.22 [日]	14:00	素晴らしき放浪者 (86分) <i>Boudu sauvé des eaux</i>
	16:00	コルドリエ博士の遺言 (96分) <i>Le Testament du docteur Cordelier</i>
9.27 [金]	18:15	捕らえられた伍長 (107分) <i>Le Caporal epinglé</i>
	16:30	牝犬 (100分) <i>La Chienne</i>
9.28 [土]	19:00	フレンチ・カンカン (97分) <i>French Cancan</i>
	13:30	どん底 (90分) <i>Les Bas-Fonds</i>
9.29 [日]	16:00	浜辺の女 (71分) <i>La Femme sur la plage</i>
	18:00	南部の人 (91分) <i>L'Homme du sud</i>
10.4 [金]	13:00	黄金の馬車 (103分) <i>Le Carrosse d'or</i>
	15:30	恋多き女 (96分) <i>Elena et les hommes</i>
10.5 [土]	18:00	ラ・マルセイエーズ (135分) <i>La Marseillaise</i>
	16:30	河 (99分) <i>Le Fleuve</i>
10.6 [日]	19:00	この土地は私のもの (103分) <i>Vivre libre</i>
	12:30	浜辺の女 (71分) <i>La Femme sur la plage</i>
	14:15	現代の映画作家シリーズ ジャン・ルノワール第3部「規則と例外」(85分) <i>Jean Renoir, le patron 3e partie : la règle et l'exception</i> ジャン・ルノワールの演技指導 (22分) <i>La Direction d'acteurs par Jean Renoir</i>
	17:00	捕らえられた伍長 (107分) <i>Le Caporal epinglé</i> * 上映後、ディスカッションあり ゲスト：濱口竜介、三宅唱/司会：坂本安美 suivi d'une discussion avec Ryusuke HAMAGUCHI et Sho MIYAKE (animée par Abi Sakamoto)
	13:00	南部の人 (91分) <i>L'Homme du sud</i>
	15:00	河 (99分) <i>Le Fleuve</i>
	17:30	ルノワールの小劇場 (94分) <i>Le Petit Théâtre de Jean Renoir</i>

一律1,100円(全席自由/整理番号順) ★の付いている回は一律1,500円 ☆「子ども映画教室」は一般1,100円/中学生以下500円  
Peatix (<http://ifjtokyo/peatix.com/view#>) にて8/14(水) 12:00より発売

\*窓口販売はございませんのでご注意ください。上映開始15分前開場・上映開始10分後以降の入場はご遠慮下さい

[会場・お問い合わせ] 東京日仏学院 〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15 | Tel. 03-5206-2500 | Fax. 03-5206-2501



ジャン・ルノワールの現在をめぐって 主催・会場：東京日仏学院 | 助成：CNC | 協力：アテネ・フランセ文化センター、シネマテーク・フランセーズ、シネマクワフィン、クレストインターナショナル、ダッサイ・フィルムズ、ゴーモン、レ・グラン・フィルム・クラシック、レ・フィルム・デュ・ジュディ、INA、アイ・ヴィ・シー、川崎市アートセンター、紀伊國屋書店、マーメイドフィルム、パテ・フィルム、タマサ・ディストリビューション、ザ・フェスティバル・エイジェンシー、ザジフィルムズ

Jean Renoir, vivant! ; organisé par l'Institut franco-japonais de Tokyo | avec le soutien de : Institut français | merci à Centre Culturel de l'Athénée Française, Cinémathèque Française, Cine Mcguffin, Crest International, Dassai Films, Gaumont, les Grands Films Classiques, Les Films du jeudi, INA, IVC, Kawasaki Art Center, Kinokuniyashoten, Mermaid Films, Pathé Films, Tamasa Distribution, The Festival Agency, Zazie Films